第５８回 東北農業経済学会・新潟大会のご案内（第４報）

標記大会についてご案内申し上げます。

第５８回大会は新潟県において開催されることになりました。研究者、行政・普及関係者、農業関係団体、農業者の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。（専用フォームより 8/23 まで）

本大会への参加は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、オンライン開催（ネット環境が使えない方に限り、会場参加について配慮する場合がある）とする予定です。

大会に関する最新情報は、学会ホームページ及び学会メーリングリスト等で、随時、お知らせする予定です。

＝＝

◆日 程 2022 年 8 月 26 日（金）諸会議、8 月 27 日（土）大会シンポジウム・総会
8 月 28 日（日）個別報告

◆場 所　オンライン、新潟食料農業大学　　◆参加費 無料

＝＝

◆大会シンポジウム（8 月 27 日（土））

テーマ：農業支援人材の育成課題

【会場】新潟食料農業大学（配信会場）、オンライン

＝＝

◆主 催 東北農業経済学会新潟大会実行委員会
（委員長：武本俊彦（新潟食料農業大学） 事務局長：斎藤順（新潟食料農業大学））

◆後　援：新潟県、新潟食料農業大学、長岡大学、新潟大学、ＪＡ新潟県中央会、（一社）新潟県農業会議、新潟県土地改良事業団体連合会

＝＝

◆プログラム

--【２０２２年８月２６日（金）（大会第１日）】----------

〇編集委員会　13:00～14:30（予定）　オンライン開催（Zoom）
〇学会賞選考委員会　14:00～14:45（予定）　オンライン開催（Zoom）
〇役員会　15:00～17:00（予定）　オンライン開催（Zoom）
※　各会議担当者から、該当者にオンライン会議（Zoom）の案内をいたします。

--【２０２２年８月２７日（土）（大会第２日）】----------

〇受付　9:00～
〇開会・挨拶　9:30～ 9:40
〇大会シンポジウム　9:40～15:55

テーマ：農業支援人材の育成課題

座 長　伊藤亮司（新潟大学農学部）・青山浩子（新潟食料農業大学）

農業を取り巻く各機関・各組織において農業者をサポートし、農業振興に携わる指導者（ここでは農業支援人材と呼ぶ）には、①県の普及指導員（一部の市に配置される農業技師等専門職を含む）、②農協の営農指導員等の農業団体の指導員、③ムラづくり・地域おこし・6 次産業化支援等に携わる（中間支援組織などの）地域サポート人材、④その他いわゆる金融機関・コンサル・NPO などを含めた民間団体を挙げることができよう。このうち①②は既存の支援組織・支援人材、③④はどちらかというと新たなタイプと整理しても良いかもしれない。

新たな時代的要請に対応しうる多様な農業支援人材をどのように育成し、それらを束ね、地域農業の振興に資するネットワークをどのように構築するのか。現場に横たわる課題を明らかにし、①そもそも地域農業現場における支援ニーズ、②既存組織における支援ニーズへの対応状況および今後求められる支援者像、③支援人材の育成手法、技能・技術の継承・組織的蓄積についての課題、④新たな組織における人材の導入・定着の課題および既存組織とは異なる新たな機能や可能性、⑤既存の組織間あるいは新た

な組織を含めた支援機関・支援人材間の連携可能性とそのために必要となる技能・能力の開発課題、⑥互いが互いをどう見ているか、それぞれの個性を活かしつつ地域農業の背中を押すための体制整備についての展望を論じたい。

東北・新潟においては、農村は高齢化・疲弊し、その支援は待ったなしである。また、厳しい状況が早期に先鋭的に表れるのが被災地域であるとも考える。そこでは県の普及指導員や農協、市町村の担当者、農業委員など（個々の担当者が）が踏ん張っていることは確かだろうが、それらが市町村合併や財政難の中で現場から遠ざかり、マンパワーも不足しがちな局面となっている。他方で、農業・農村を取り巻く社会環境の変化や農業生産者の多様化（零細家族濃から大規模法人層まで・稲作単作型から複合農業、更には 6 次産業化まで）の下で、支援すべき対象は拡大し、支援内容・支援ニーズの幅は多岐にわたる。特に、東北・新潟では、水田農業の高度化・園芸振興を新たに図る必要があり、また 6 次産業化の拡大・安定化も課題である。従来の支援水準の維持でさえ手一杯のところに、新たな地域農業再編・新たな業務構築を視野においた普及指導が求められる状況である。

そのため、既存組織だけでは叶わない地域課題へのアプローチのためには、地域において各機関・各農業者の仲立ちをする中間支援組織が必要になり、災害復興も含めて、その導入・定着が図られてきた。ただし、それら中間支援組織・中間人材は財政面・経営面では安定性を欠き、農業・農村の担い手がいよいよ高齢化し、サポートの拡充が必要になるなかで、事態はむしろ逆に進むジレンマも存在する。地域に寄り添い続けられる支援体制をどのように構築するのか。各農業支援組織のあり方・支援人材のあり方について、現場から学びつつ、現場の皆さんが自信とプライドを改めて再確認できるよう、学会としての応援歌を企図した議論を図りたい。

座長解題　9：40～9:55　新潟大学　伊藤亮司
報告１　新潟県における地域農業の課題に対応した普及活動の展開
　　新潟県農林水産部経営普及課長　石田正雄
報告２　事例報告：普及指導員の活動と役割から考える人材育成
　　大阪府南河内農と緑の総合事務所 農の普及課　林兵弥
報告３　中越地域における災害復興・中間組織人材の育成・定着・継承課題
　　にいがたイナカレッジ　阿部　巧
報告４　農業者として 6 次産業事業者として、また 6 次産業プランナーとしての想い
　　農カフェきらら　新谷梨恵子

昼食休憩（12：20～13：30）　質問票回収　別室（オンライン・ブレイクアウトルーム）で打ち合わせ

討論者１　上田賢悦（秋田県立大学）　人材育成論の立場から：学術的な論点整理とその現場適用課題
討論者２　荒井聡（福島大学）　地域農業論の立場から：多様な担い手をどう確保するか
討論者３　百合岡雅博（長岡大学）地域食品産業論の立場から：農業界との（水と油）をどうするか

総合討論（14：20～15：40）
座長まとめ　新潟大学　伊藤亮司
閉会挨拶

〇総会　　16：00～17：00　学会総会　同一の Zoom
--【２０２２年８月２８日（日）（大会第３日）】----------
〇個別報告（ZOOM オンライン）　9:00～12:00
〇閉会　　12:00

◆大会に関する各種申し込み等について

１．大会参加方法

参加申込者には、23日（火）17時までとなります。

なお、新潟食料農業大学会場での大会参加は、新型コロナウイルス感染症対策から、原則ご遠慮いただいております。ご了承ください。

大会参加費は無料です。

２．オンラインでの参加方法

① オンライン会議ツールのZoomを用います。Zoomによるシンポジウム参加には、PC（カメラ、マイク機能付き）、Zoomアプリ、インターネット回線が必要になります。Zoomクライアントアプリは無料でダウンロード可能ですので、インストールしていない場合、各自、インストールをお願いします。

② 新潟大会実行委員会から、参加申込者（会場参加で申し込みされていた方も含めて）に対し、シンポジウム開催３日前（**８月２３日**）までに、Eメールでオンライン会議（Zoom）のURL、報告要旨集を送付します。

③ 大会シンポジウムの時間（9:30開始、5分前よりご案内）になりましたら、案内のあったURLに接続し、Zoomを起動して、オンライン会議に参加してください。Zoom上では、名前を「氏名（所属）」のように入力願います。

④ 報告内容に対する質問、討論への参加は、Zoomの「チャット機能」または「挙手」機能を使って行います。

⑤ 大会シンポジウム終了後、同じオンライン会議室（ミーティングID）で、引き続き、総会を行います（総会に出席しない方は、シンポジウム終了後、会議を退出してください）。

３．個別報告について

（１）個別報告への参加方法

① オンライン会議ツールのZoomを用います。Zoomによる個別報告参加には、PC（カメラ、マイク機能付き）、Zoomアプリ、インターネット回線が必要になります。Zoomクライアントアプリは無料でダウンロード可能ですので、インストールしていない場合、各自、インストールをお願いします。会場は４つにブレークアウトルームとして分かれていますので、参加するブレークアウトルームに入室してください。

② 新潟大会実行委員会から、参加申込者に対し、個別報告開催４日前（８月２３日）までに、Eメールでオンライン会議（Zoom）のURLを送付します。

③ 各個別報告の時間になりましたら、案内のあったURLに接続し、Zoomを起動して、オンライン会議に参加後、ブレークアウトルームへ移動してください。Zoom上では、名前を「氏名（所属）」のように入力願います。

④ 報告内容に対する質問、討論への参加は、Zoomの「チャット機能」または「挙手」機能を使って行います。なお、座長から指名された質問者はカメラと音声をオンにしてから質問をお願いします。

⑤ 報告者の入れ替えのため、報告後５分間の時間をとっておりますが、全会場の進行を円滑に行うため設定された時間（報告20分、質疑5分）を厳守頂けるようお願いいたします。

（２）個別報告の報告方法

① 報告時間は20分、質疑5分です。報告者は時間厳守をお願いします。

② 報告者は、指定されたZOOMミーティングルームに入室し、画面共有の上発表を行ってください。前の報告者の報告が終わった後に共有及び音声の通信状態の確認を行ってください。通信の安定性確保のため、なるべく有線接続環境をご利用ください。報告時間前の５分間が準備時間となります。

③ 発表するZOOMミーティングルーム（ブレークアウトルーム）と時間を確認いただき、上記②実施のため開始5分前には待機してください。

④ 報告資料は、ご自身で当日会議チャットへ貼り付けてください。

⑤ 質疑が終了するまでは画面共有をそのままにしてください。

（３）個別報告一覧

	No	報告者（所属）	タイトル	座長
	第1会場			
9:00~9:25	1-1	河本紗都美(東北大学農学部)	農村マイクロツーリズムにおける農作業体験への意向と課題	福田竜一（農林水産政策研究所）
9:30~9:55	1-2	金子あき子（龍谷大学）	香港の日系食品企業N社における事業多角化の現状と課題―カット野菜事業と植物工場事業の比較―	石塚哉史（弘前大学）
10:00~10:25	1-3	孫昭（秋田県立大学）	中国農民専業合作社が行う農産物販売の課題と発展方向	石塚哉史（弘前大学）
10:30~10:55	1-4	Cong WANG (東京大学)	Does Migration Contribute to Household Expenditures? Evidence from Nepal	高山太輔（福島大学）
11:00~11:25	1-5	陳奥飛（山形大学）	ユネスコ食文化創造都市認定後の鶴岡市民の食文化に対する意識	酒井徹（秋田県立大学）
11:30~11:55	1-6	大鐘智香子（東北大学農学研究科）	宮城県仙台市3地域の食料品アクセス状況についての考察	酒井徹（秋田県立大学）
	第2会場			
9:00~9:25	2-1	稲葉修武（農研機構東北農業研究センター）	福島県営農再開地域における農業者間のハウス環境データ共有の効果と課題ー新規作物導入経営への知識共有の観点からー	山本和博（愛媛大学）
9:30~9:55	2-2	水木麻人（農研機構東北農業研究センター）	東北地域におけるタマネギ生産の現段階と課題	山本和博（愛媛大学）
10:00~10:25	2-3	片山ひろみ（宮城大学大学院食産業学研究科）	「農協直売所による新たなローカルフードシステムの展開　―アンケート調査結果が示す直売所の課題と取り組み―」	藤科智海（山形大学）
10:30~10:55	2-4	滝口沙也加（宮城大学）	ＪＡ農産物直売所の特徴―販売効率を規定する要因―	藤科智海（山形大学）
11:00~11:25	2-5	清野誠喜（昭和女子大学）	食品パッケージにおけるシズルワードの利用・特徴	磯島昭代（農研機構東北農業研究センター）
11:30~11:55	2-6	佐藤和希（岩手大学大学院連合農学研究科）	農協組織における「対話」概念の形成過程に関する一考察	小山田晋（北海道大学）
	第3会場			
9:00~9:25	3-1	宮田真由（秋田県立大学）	内発的農村発展と施策誘導 －秋田県によるGBビジネス事業を対象に－	小沢亙（山形大学）
9:30~9:55	3-2	鷲尾環（秋田県立大学生物資源科学研究科）	広域集落活動における行政支援の課題　ー秋田県横手市の地区交流センター事業実施地区を対象としてー	小沢亙（山形大学）
10:00~10:25	3-3	川﨑訓昭（秋田県立大学）	農業経営体の経営発展における経営理念の役割と意義	角田毅（東北大学）
10:30~10:55	3-4	狗巻孝宏（農研機構東北農業研究センター）	農業経営発展における企業者活動と企業者能力の特徴	角田毅（東北大学）
11:00~11:25	3-5	柳京熙（弘前大学）	飼料用稲わらの広域流通に関する一考察	鵜川洋樹（秋田県立大学）
11:30~11:55	3-6	孟源（東北大学農学研究科）	牛伝染性リンパ腫に関する繁殖経営のリスク認識とマネジメント	鵜川洋樹（秋田県立大学）
	第4会場			
9:00~9:25	4-1	菊地敬子（宮城県仙台農業改良普及センター）	生活関係普及員の伴走型活動の成果と今後の普及活動について	植田賢悦（秋田県立大学）
9:30~9:55	4-2	小向昌啓（岩手農業研究センター）	機械学習による農業経営体数予測 －農林業センサスの調査個票と岩手県八幡平市の農地情報を用いた分析－	泉谷眞実（弘前大学）
10:00~10:25	4-3	新田義修（岩手県立大学）	都市近郊地帯の農地中間管理事業の機能と課題-岩手県都市近郊地帯を事例に-	泉谷眞実（弘前大学）
10:30~10:55	4-4	長沢咲希（秋田県立大学大学院）	農業労働力確保と子育て支援のコラボワークに対する評価ー育児期女性を対象としたPAC分析からー	澤田守（農研機構中日本農業研究センター）
11:00~11:25	4-5	黄靖雅（東北大学農学研究科）	農業法人の従業員におけるワーク・エンゲイジメントの実態と課題－山形県の農業法人を対象として－	澤田守（農研機構中日本農業研究センター）
11:30~11:55	4-6	堀正和（元一般社団法人新潟県農業会議）	農業委員会の活動の実態と女性農業委員登用の現状について～改正法施行６年を経過して～	中村勝則（秋田県立大学）

大会参加および個別報告の申し込み・お問い合わせ先

	締め切り	申込、問合せ先
大会参加申込 （個別報告申込を除く）	8月23日（火） 17時	新潟食料農業大学　食料産業学部 斎藤　順 申込：https://forms.gle/EnwbfA1cErzowjBj6 問い合わせ：jun-saito@nafu.ac.jp
大会に関する問合せ	ー	新潟食料農業大学　食料産業学部 斎藤　順 jun-saito@nafu.ac.jp